

「靴は売れるか？」と「趣味は音楽鑑賞」

81年目を迎える伝統校である本校に、4月1日に着任いたしました。

はじめに生徒に話すことが、校長の最も言いたいことのひとつかも知れませんが、始業式で話したのは「物事を前向きに考えること」の大切さ。

経営の神様といわれた松下幸之助氏は会社の採用試験で「あなたは運がいい人ですか？」と質問して、運が悪いと答えた人は学歴や他の成績が良くても不採用にしたとのこと。運がいいとか、運が悪いとかは目に見えるものではない。運がいいと答えた人は物事を前向きに考えることができ、自己肯定感が高いのかも知れません。松下幸之助氏は物事を前向きに考えることができることを高く評価したのかも知れないと生徒たちには話しました。

ここでは、似たような話をもう一つ。

ある靴屋がセールスマンを、靴をはく習慣のない未開の地に行かせた。一人のセールスマンは「ここでは靴は全然売れない。誰も靴など履いていない」と悲嘆して報告しましたが、別のセールスマンは目を輝かせ「この地には無限の可能性がある。まだ誰も靴を履いていないんだから」と報告した。コップに半分だけ入った水を見て、まだ半分もあると見るか、もう半分しかないと見るか、これが物事を前向きに考えることができる力。自分の気持ちの持ち方というのは、簡単なようで、なかなか難しい。生徒一人ひとりに物事を前向きにとらえる人になってもらいたいし、そういう気持ちで物事にチャレンジする新学期にして欲しいと話しました。

さて、新しい職場では必ず自己紹介をさせられる。そして、必ず趣味を聞かれる。私はその際、必ず読書と音楽鑑賞と答えることにしていますが、これでは本当は何も答えていません。そこでこの場で補足します。

映画「ダイナー」（1982年）で若い主人公の一人が妻とケンカをする。妻が棚に戻したレコードの位置に怒っているのである。棚はジャンル・年代・アルファベットで整理されているのに、ジェームス・ブラウンが「ロック」に入れられているとキレているのですが、「YOASOBI」のCDが「演歌」の棚に入れられているのを想像してみてください。少しだけ分かりましたか？

コレクションが「物欲」はもちろん、「整理欲」から成り立っていることをよく表したワンシーンですが、今は配信が主流なので、レコード棚自体がイメージににくいかも知れませんが、この夫の態度には共感こそしませんが（妻の目にかすかに涙が浮かんでいるのが、ホントウにかわいそうです）、身につまされれば、立派な（！？）音楽マニアです。ハイ！私もそういう一人です。これで「趣味は音楽鑑賞」のレベルを押し量ってください。ちなみに、ジェームス・ブラウンは「R&B」の棚にないといけません。

最後の最後、付け足しの付け足しですが、村上春樹氏が随分前のエッセイで、この場面を見て、他人事と思えないと書いていたと思います。あの日本を代表する大作家の村上春樹氏も、そういう一人なんですね。もちろん、これは自己弁護の付け足しでした。

令和4年4月22日

大村城南高等学校長 中小路尚也